

日 時：令和元年6月27日（木）18時30分～19時50分

場 所：鳥海会館

対象地区：沖館

参加人数：7名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○空家の対応について</p> <p>（市民から）</p> <p>朽ち放題で特定空家の対象になっている物件が1軒あり、最近タヌキやキツネが住みついていると聞く。農林課から箱罟を借りて設置したところだが、そういったことも樹木が繁茂していることが原因ではないかと考えている。何か対策はできないものか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・その物件は特定空家に認定されていて、現在は「指導」の状況で、本人に通知を出しているところである。当初、本人はその空家を売りたいという意向だったが、その後は回答がなく、今後は「勧告」「命令」「行政代執行」と進んでいく。・雑木や草の繁茂がひどいことは確認しているが、対策をとるためには本人に経費を負担してもらい必要がある。できることだけでもやってもらえるよう交渉を続ける。・暴風雨があったときなどの緊急時の対応は消防にもお願いをしており、建設課でも数か月ごとに状況を確認するためパトロールをしている。緊急性が出てきた場合は、再度相談させてほしい。
<p>○平川市の奨学金について</p> <p>（市民から）</p> <p>長女のときは日本学生支援機構から奨学金を借りていても、平川市から月3万円の奨学金を借りることができたが、4～5年前、次女のときには借りられないと断られた。最近の子どもは専門学校や大学等への進学率が高いので、3万円であっても借りられるととても助かる。今後はまた、学生支援機構から奨学金を借りていても、市から奨学金を借りられるようにしてもらえないか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・どうして貸与できないのか確認して回答する。また、進学する子どもたちへ向けてどういう支援ができるのか教育委員会内で議論する。
<p>○道路の砂埃について</p> <p>（市民から）</p> <p>りんご畑を営んでいるが、付近は、車通りも多いうえ枇杷田川にかかる農道の砂埃がひ</p>

どく、秋になるとつる元に埃がついて困っている。埃が立たないようにできないか。

(市から)

- ・田んぼや畑で舗装されていないところは、市道であっても残っている。
- ・何かの事業を活用し、実施できる可能性があるのか、他にやれるメニューがあるか、近いうちに現地を確認・検討後回答する。

○県道の拡幅工事について

(市民から)

平賀東中学校の通学路になっている県道吹上金屋黒石線は、数年前に新館地区の信号機から農協までの区間が広く整備されたが、そこから先は従来のみで、特に冬は除雪をしても狭くて対向車とすれ違うのが難しい。県道ではあるが、市から道路の拡幅を働きかけてもらえないか。

(市から)

- ・県道吹上金屋黒石線に関しては、まずは町居地区側の工事を進めている状況である。以前、新館地区の信号機近辺を整備した際に県の担当と話したが、ここが終わればまずは町居地区を進めて、その後で沖館地区の方に着手するという打合せをした。
- ・道路関係の要望は多く、優先順位をつけて進めている状況である。沖館地区はまだ先のためご迷惑をおかけするが今後も県に呼び掛けていく。

○融雪溝の設置について

(市民から)

沖館地区には傾斜地が多く、水もあるので、冬の雪対策に水と傾斜を利用して融雪溝のようなものを整備できないか。

(市から)

- ・沖館地区の融雪溝については前にも要望があり様々に検討したが、冬場の水量が不足していて断念したという経緯がある。
- ・以前にもまちづくり懇談会で話題になったが、水源の問題が一番のネックである。沖館地区については仮に枇杷田川を使うとすれば高低差があるためポンプアップと圧送管が必要になるがポンプ自体の維持管理費は地元の負担になる。
- ・この辺の流雪溝は止水板でせき止めて水を溜めて溶かすことになるのだが、水温が低ければ低いほど水量が要る。井戸水だと13～20度くらいあるため、水量をあまり使わなくていいが、川の水を使うとなると相当な水の量を使うことになる。また、川の水は水温が下がる程に水量が少なくなるので、一番使いたいときに水量が少なくなる。そのため、既にこういった方法で融雪溝を利用しているところでも苦情が発生している。
- ・総合的に考えて、沖館地区では融雪溝を設置するのはまだ難しいと考えている。

○津軽サービスエリアを利用した市の物産・特産品の PR について

(市民から)

津軽サービスエリアを利用して平川市の物産・特産品をもっと観光客や高速道路利用者に向けて PR できないか。

(市から)

- ・今年改装してイベントができるスペースなどが新しくできた。平川市だけでなく弘前市など津軽エリア全体を PR するようなものになっているため、平川市だけの物産を置くというのは難しいかもしれない。催事場を設けて、そこでネクスコの方で様々な催しをする計画はあるようだ。ネクスコに、平川市の物産をより PR できないか聞いてみてもいいと思うが、平川市産の物産を多く置くというのは少し難しいように思う。サービスエリア近辺で取れたりんごを置いているというのは聞いている。

○若者の移住者促進について

(市民から)

平川市の基幹産業は農業で、今までも様々な支援をしてもらっているが、若者は農業以外へ就職する人が多い。市全体のことを考えると、そういう若者たちが住みやすいまちにも着目する必要があるのではないか。

市の中心部近くには未だ田んぼなども多いほか、今後、建設予定の新庁舎付近など、まだまだ生活空間をつくるスペースが沢山あるのではないか。

今は若い人たちは核家族も多く、狭い土地に戸建てを建てて生活するというスタイルが増えているように思う。そういう人たちが転入してくるためには、それなりの住みやすいエリアを設けることや、一定の期間は無利子で住めるなど、平川市に住むメリットを感じられるような事業をしたらどうか。平川市の知名度を上げる意味でも大きな効果があるのではないか。

(市から)

- ・農業以外の仕事をする若い人たちが住めるようなところを作ることを、平川市は積極的に進めていて、現在は平賀駅裏の開発を、これまでも小和森小学校の裏側、金田小学校の側などの開発もしている。民間の開発業者に、助成金も出していて、昨年度の総務省の発表によると、平川市は転出者よりも転入者の方が 61 人増えている。
- ・子育て世代の住宅支援についても、平成 25 年度から実施しており、これらを活用して家を建てた若い世代は、今年の 3 月時点で元々市内に住んでいた人を含めて 302 軒、1192 人となっている。そのうち、市外からの転入者は 123 世帯、381 人である。
- ・平川市は地価が安く、雪も比較的この近辺では少なく、子育てや学校の支援なども充実しているので、制度にかかわらず住みたいという人が結構入ってきている状況である。
- ・平川市は優良農地が多いため市街化調整区域が多く、簡単に住宅を建てたり企業誘致をしたりできない。そのため、緩和区域を指定し開発をしている。

○防災メールでの情報提供について

(市民から)

昨年、刃物を持った不審者が出たときに防災無線での放送や防災メールが届かなかったのはどうしてか。親たちは仕事で不在にしている時間だったので、地域の人には分かるようにしてもらいたかった。今後、そういうことがあった時に放送をしてもらえないか。

(市から)

- ・当時、警察から学校に連絡があり、市でも学校から話を聞いていたが、警察からは特に周知してほしいという話がなかった。また、状況がきちんと伝えられていなかったため、勝手に情報を流すということもできなかった。刃物を持っているなどという情報をいたずらに不確定なまま拡散することも問題があると思いき情報を流さなかった。
- ・今後そのようなことがあって、確実に市民に周知すべき案件だと判断したときには、警察と連携して情報を共有し、周知していきたいと思っている。

○平川市診療所の財政状況について

(市民から)

平川診療所の会計は赤字ではないか。先生も2人体制のようだが、患者数も少なく、平賀地域の場合、病院の数も多いため、診療所は無理に運営しなくてもいいのではないか。

(市から)

- ・市で運営している診療所は、一般会計から繰り入れを行っているため、赤字ではないという状況である。自治体でやっている病院は、赤字のところが多く、患者数が多くても黒字のところは限られている。
- ・平川診療所は2人体制ということだが、阿部医師は、葛川診療所の医師が辞められたため、週3回葛川診療所へ診療に行っている。また、患者数を増やすため、4～5年前から弘前大学の整形外科医にも来てもらっている。
- ・建てて間もない診療所をなくすということは難しい。診療所がよくて来ている市民の方もいるので、そういうことも考慮したい。

○新庁舎の建設について

(市民から)

新庁舎建設に関する資料が配布されたが内容を説明してほしい。

(市から)

- ・今の本庁舎は震度6強の地震がくると倒壊の危険があるということもあり、合併特例債という国の事業を活用して建て替えを行うことにした。新庁舎は、高齢社会に対応して、バリアフリー化を行い、1階のフロアで大概の用事を足すことができるように、現在2階にある部署に加えて健康福祉部も1階に設ける。

- ・グラウンドフロアには市民の方が様々な使える市民ホール、2階には災害対策本部、3階には市民が気軽に利用できるカフェスペースも設ける。
- ・空気の調整には環境省の補助金を活用し、地下水の温度を利用して、夏には冷房、冬には暖房として活用する。駐車場の一部も地下水を利用して融雪する。
- ・工事の着工は1年先送りすることとなったが、来年の9月議会を通ると着工となる。令和4年の夏から秋ころに新庁舎ができて各部署が移る予定で、全て完成するのは令和5年頃になる見通しである。